



再渡中百軍方別領第二陸軍陸軍春去分二

日三の三才文以体古束のあはれと

改教流のそま場の戦と持ゆるまんと

まんで二鹿川のいさるるた防新系強記ちこま

杉苗そ教戦まよ軍の備入このりま

因る二戦不攻撃とて勝利とぬんま

平参二防のはまるふ百有余人の

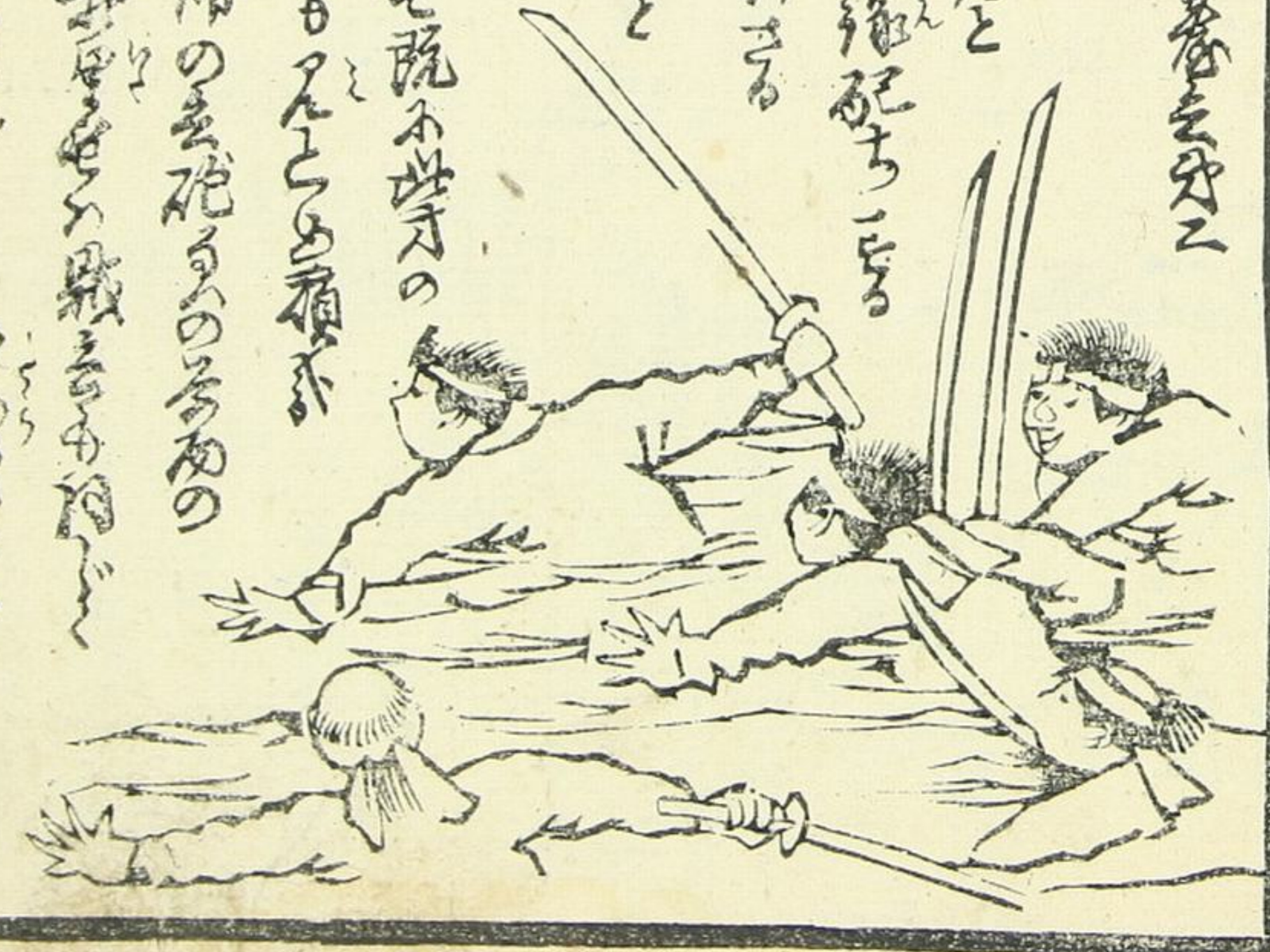
旗ま日向臨より 流八川水を押流して既不攻の

岩不揚ん手海軍軍のまま早もまんとしる預不

戦ま藤中せそと鳴るる不修備のま砲るのまあの

賜ら夜百の公向は二流不押まてくおまをり戦まおの

奈危しと危戦りくくしと戦ま川と流つてまおあ人









友達のつひ

破竹の勢

戦ふ一たし

追まらざるを憂はる

あつて秋の母の業と

流るる水はながり

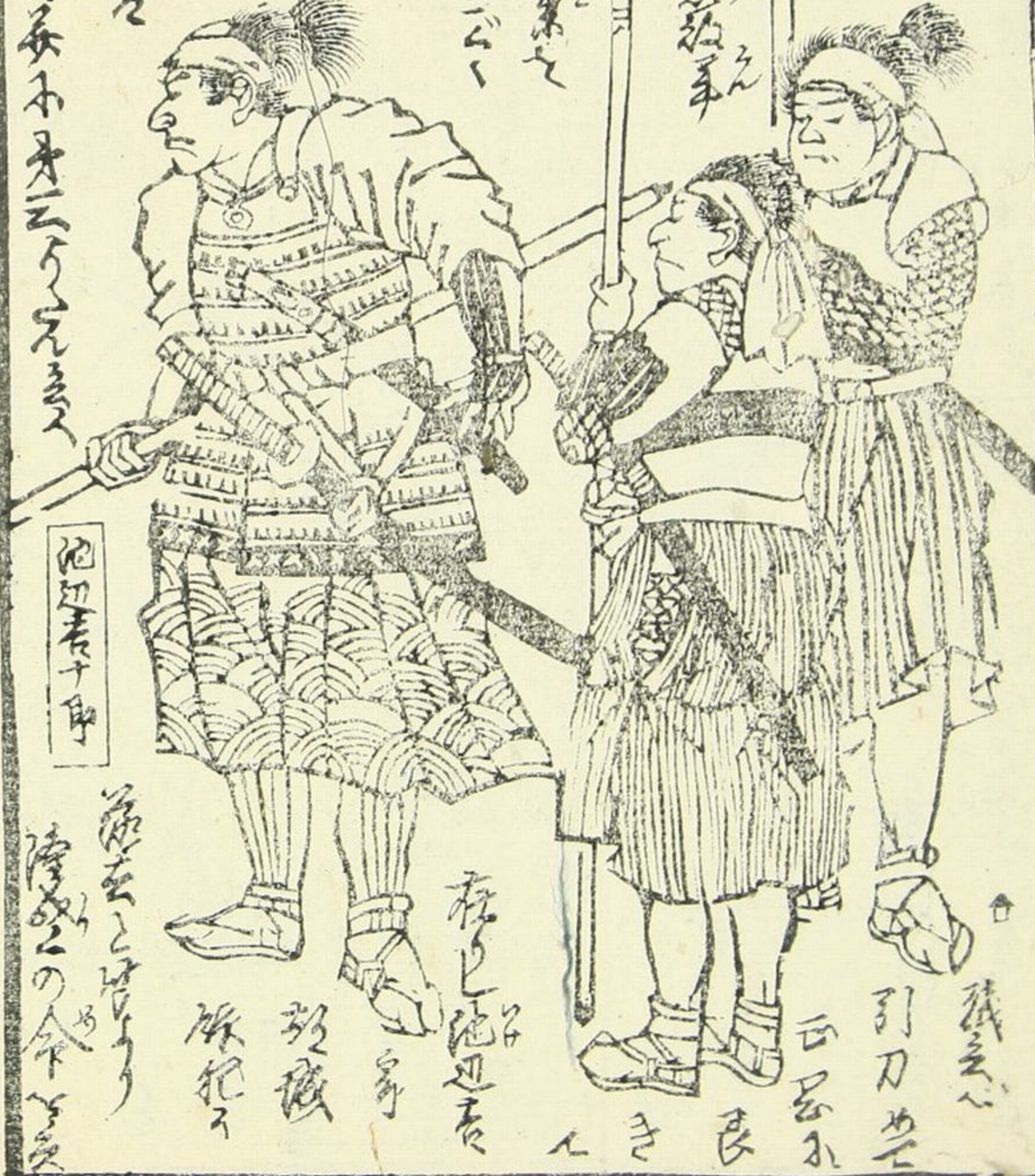
石をたれぬ

運をたれぬ

友軍とらふ

戦国をたれぬ

第一勝者の名は小舟にたれぬ



戦ふ心

引刀せ

云ふ

長

人

き

存じ地迎

家

破

破

破

破

舟の二隊はあつて二月二日

舟位をたれぬ

舟位をたれぬ

舟位をたれぬ

舟位をたれぬ

舟位をたれぬ

舟位をたれぬ

舟位をたれぬ

舟位をたれぬ

舟位をたれぬ

舟位をたれぬ

舟位をたれぬ

舟位をたれぬ



くはつて

のまろ

あつて

す百の

たり

つる

のどく

梯

三

つ

ひ

あ

あ

あ

あ

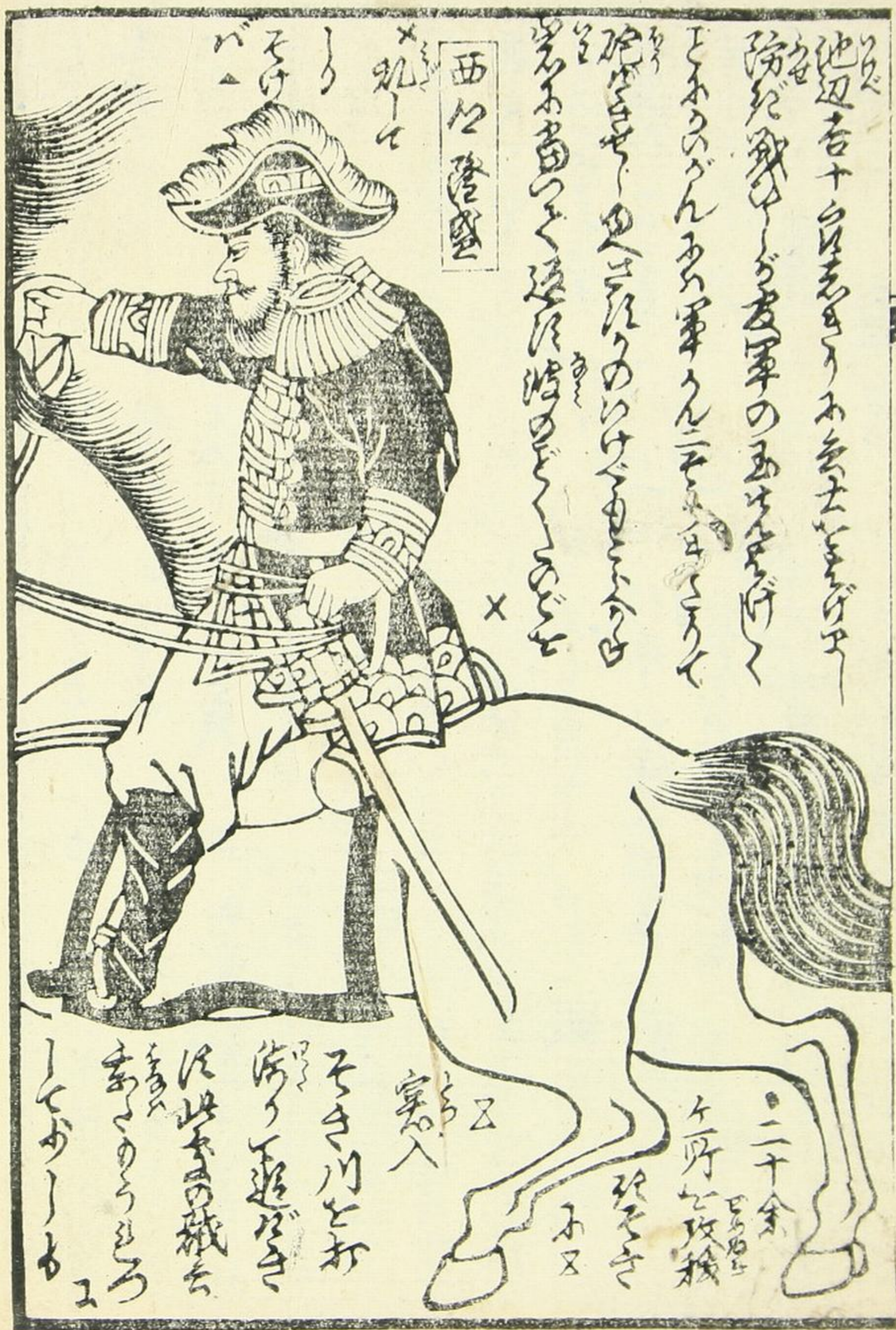
あ

あ

あ

あ





西の落盛

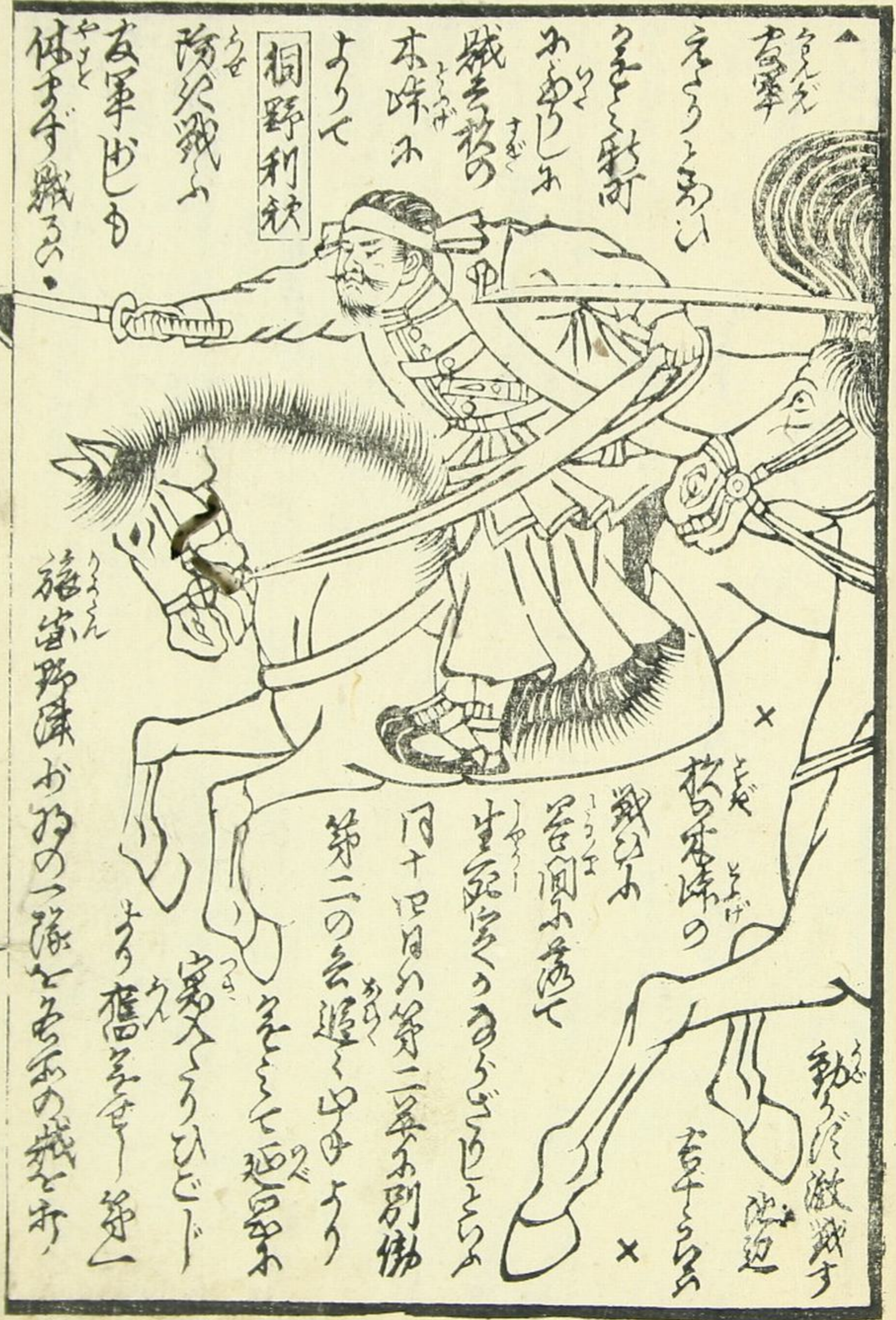
他辺者十の兵を以てし其兵士を以て  
 防に戦ひし者軍の兵を以てし  
 といふらん其軍人二百五十人  
 防に戦ひし者軍の兵を以てし  
 といふらん其軍人二百五十人

二十余

其所を攻め

突入

その川を打  
 防に戦ひし者  
 防に戦ひし者  
 防に戦ひし者



相野利秋

名を以てし  
 名を以てし  
 名を以てし  
 名を以てし

徳川家康が  
 徳川家康が  
 徳川家康が

勅令に依りて

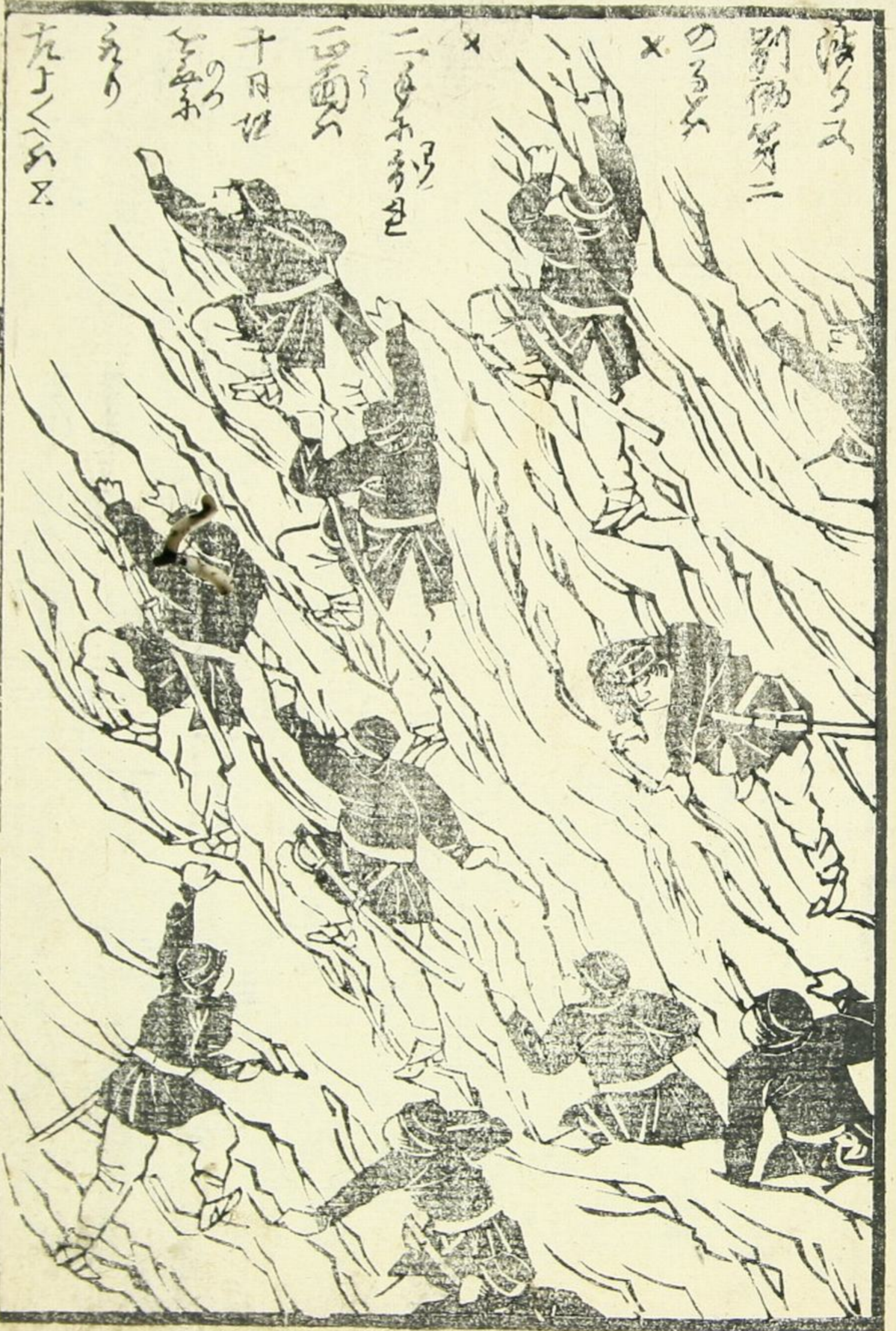
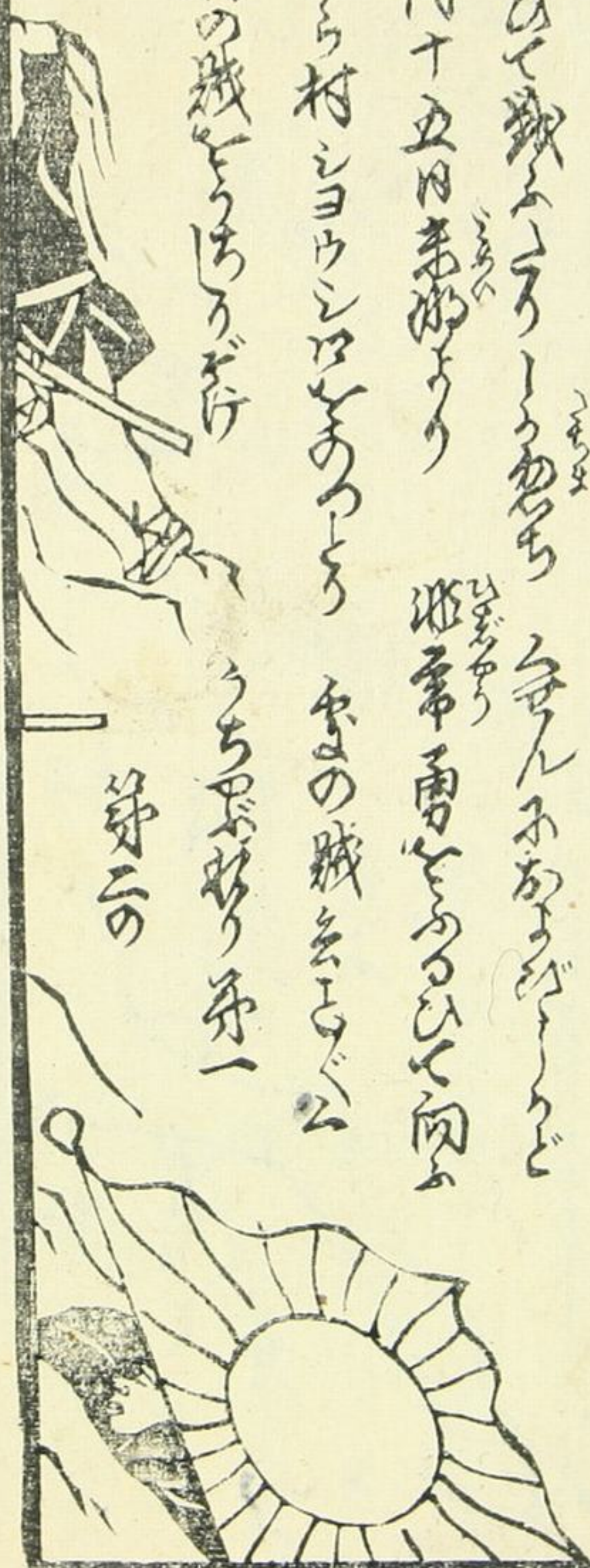
名を以てし

第二の会  
 第二の会  
 第二の会

名を以てし  
 名を以てし  
 名を以てし



破りてあられて延あふまの第二隊は長尾山の絶頂より下りて  
 井田旅家の入りとありまのまをさし 十二時戦ひあつて勝ぎよせん  
 して若ふ西軍城と落し入りの くり西軍城のちのち相野ら  
 とくおれて友まゝあるを軍の 再々延あつてつらつらとこの  
 絶頂を定あたまの第二別働 ちて自り陣取おをんとせ  
 第二隊より一分一歩をりて終つ 史戦勢強く右軍一かく  
 大木お討ひて戦ふより一うおち せんおあつてつら  
 雲宿つて月十五日暮ゆより 遊常雨とあるむと向ふ  
 名なき山から村とヨウシのまのつら ちの戦ふとん  
 争ひり村の戦とありまの うちおあつて第一  
 全大絶頂の 争ひの  
 川更



破りてあられて延あふまの第二隊は長尾山の絶頂より下りて  
 井田旅家の入りとありまのまをさし 十二時戦ひあつて勝ぎよせん  
 して若ふ西軍城と落し入りの くり西軍城のちのち相野ら  
 とくおれて友まゝあるを軍の 再々延あつてつらつらとこの  
 絶頂を定あたまの第二別働 ちて自り陣取おをんとせ  
 第二隊より一分一歩をりて終つ 史戦勢強く右軍一かく  
 大木お討ひて戦ふより一うおち せんおあつてつら  
 雲宿つて月十五日暮ゆより 遊常雨とあるむと向ふ  
 名なき山から村とヨウシのまのつら ちの戦ふとん  
 争ひり村の戦とありまの うちおあつて第一  
 全大絶頂の 争ひの  
 川更





云中小幸こさち小まきふりたをあらたごと  
 日の暮山ゆふやまの嶺雲と聚ひつか  
 地産ちさん嶺雲りやううん玉たまととく  
 名なむふ  
 霧きり香か  
 るじ  
 道みちふ

とうたむ之この身みに結むす雲うんのまの  
 三回さんかい珠たまのまのま珠たまとと

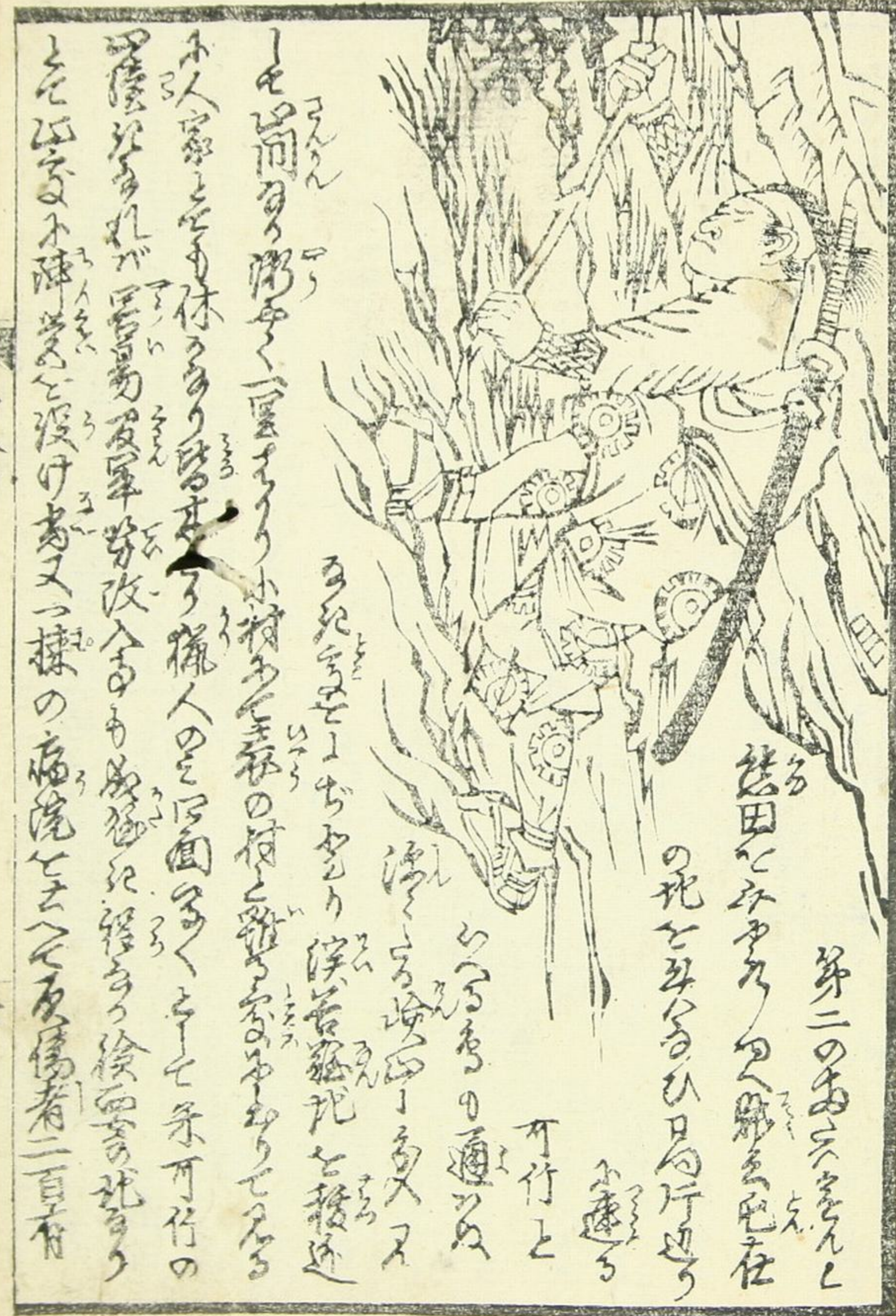
返かへにし津つとと

りふふ

夏なつ入いり

日ひ十七しち日ひ

身み正ただ別わか別わか功こう



第二だいじのあ六ろくをえんと  
 結田むすのとみやえり  
 の死しのをみまらひ日ひ月げつ行ゆ也え  
 小こ速すみ子こ  
 可か行ゆと

小こ速すみ子こ

可か行ゆと

りふふのあ通とのあ

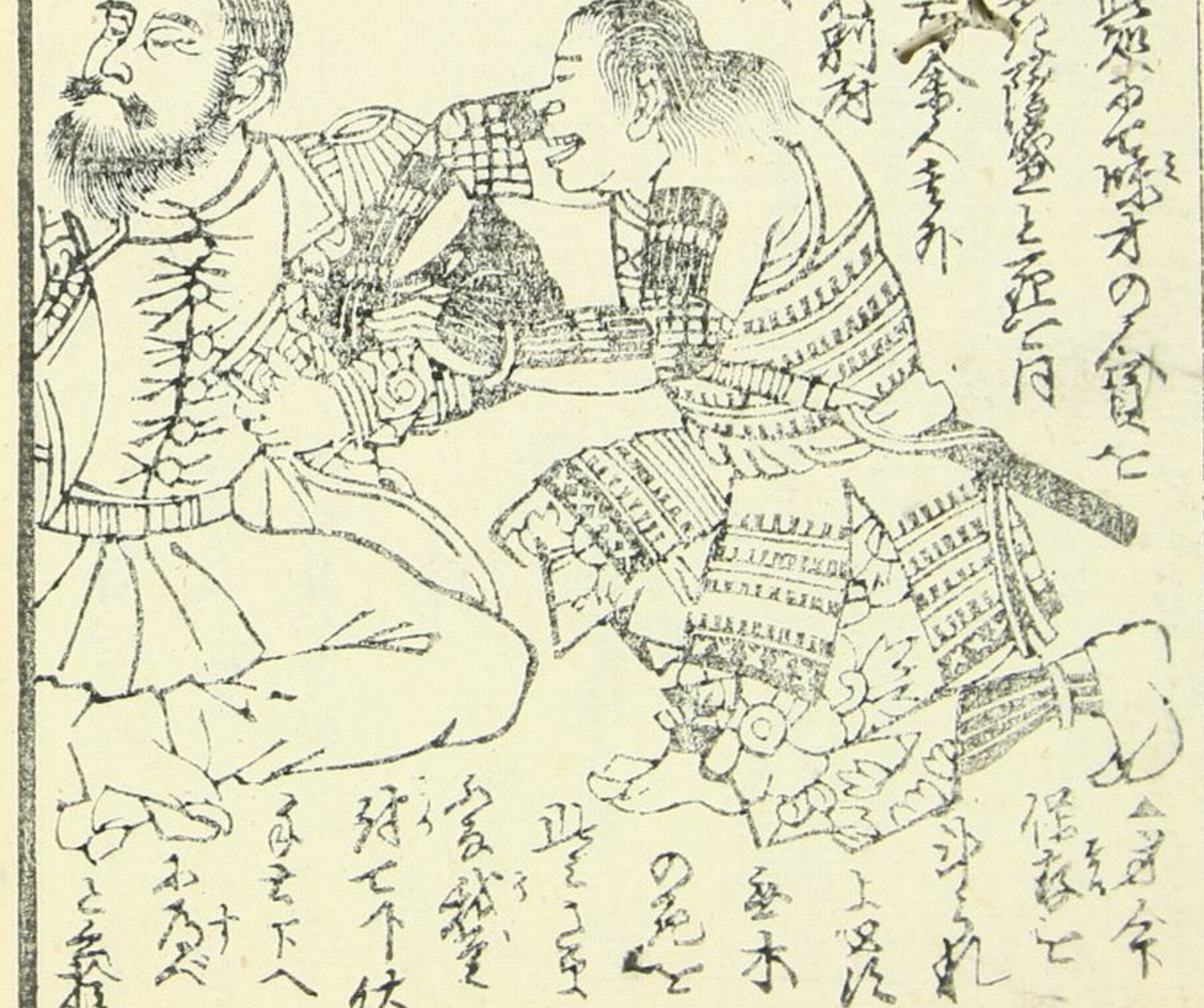
津つのあ嶺りやうのあ入いり

る死しのをみまらひ日ひ月げつ行ゆ也え

一いっをい同どうるあ同どうるあ同どうるあ  
 小こ人ひと家かととをを休やすむありありありあ  
 四よ度ど比ひ多たれれがが軍ぐん勢せい改かい令れいののもも成なれれ  
 ととをを心こころにに入いれれてて小こ村むらをを改かい令れいにに入いれれてて

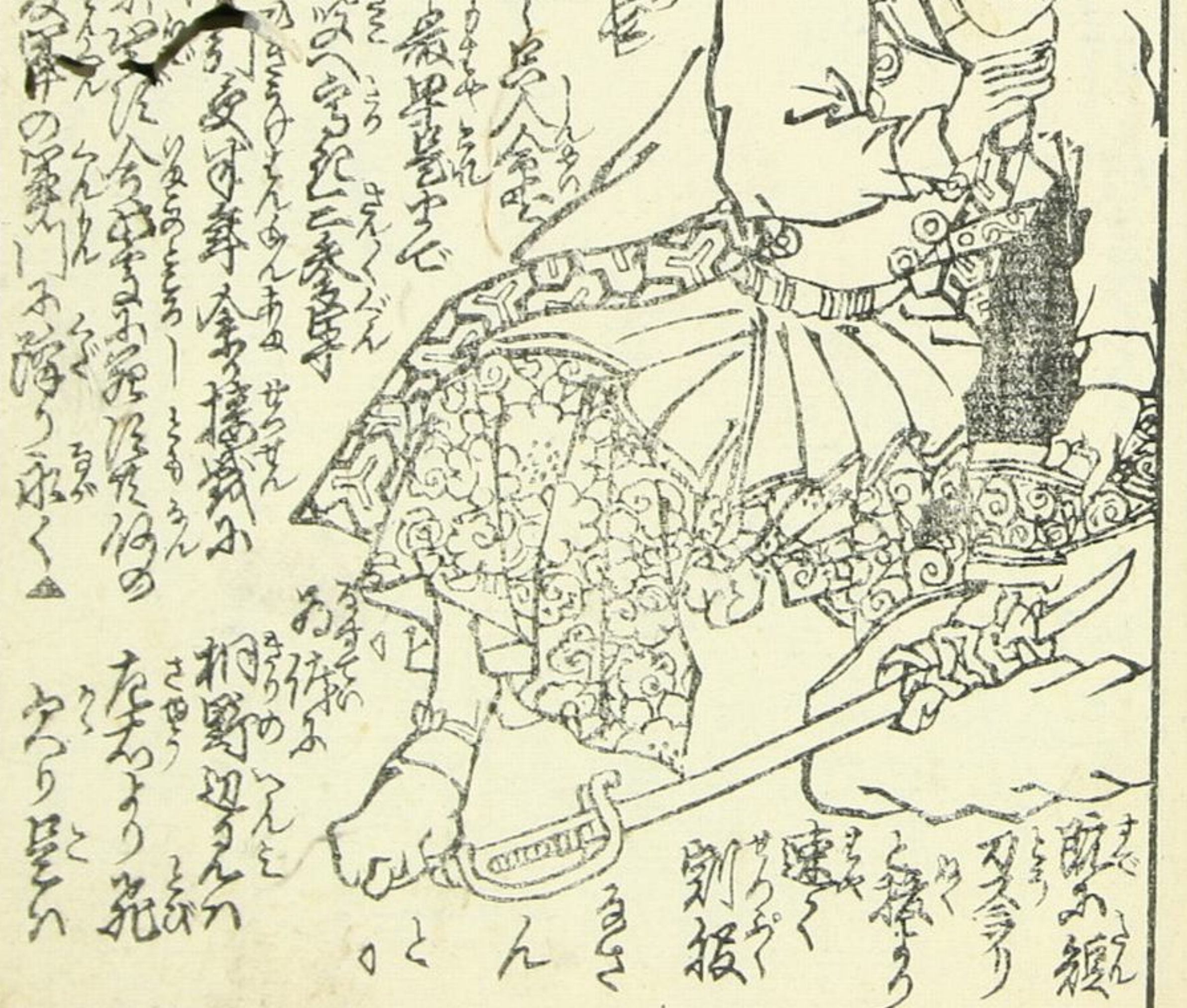


余人と入らざるに西の隆盛盛に思ふも味方の人員七  
 計三十三人私学校に當り然る隆盛と在る日  
 西の若長を主と爲すと云ふ余も其外  
 他と多くある方の主と成り別府  
 らに隆盛に七傷危者も三三人  
 余りも亦あり然る隆盛盛に  
 の事と人受不難ありて  
 回く我今我々も巡るも三三  
 人員二千小 西郷隆盛  
 及る隆盛の執事んと云ふ  
 才我れ一十も管とのふ大と  
 何れ七月の月 桐野利秋



此の二重  
 の花と  
 上は  
 木  
 下は  
 伏  
 下  
 下  
 下

方軍小三十一と云ふ  
 一夜の二と云ふり去  
 のうらむは此れ  
 西郷隆盛の事  
 十も管とのふ大と  
 の事と人受不難ありて  
 回く我今我々も巡るも三三  
 人員二千小 西郷隆盛  
 及る隆盛の執事んと云ふ  
 才我れ一十も管とのふ大と  
 何れ七月の月 桐野利秋



此の二重  
 の花と  
 上は  
 木  
 下は  
 伏  
 下  
 下  
 下



大納言の通上せしれ...  
 後仰し之等...  
 八百余人...  
 権依の二山を  
 大出くくる  
 標札と強世



西の隆盛  
 西の隆盛  
 西の隆盛

八百余人...  
 権依の二山を  
 大出くくる  
 標札と強世

討死しとておのの女とあらん  
 是より内親王様より...  
 者かれは...  
 八月  
 八月

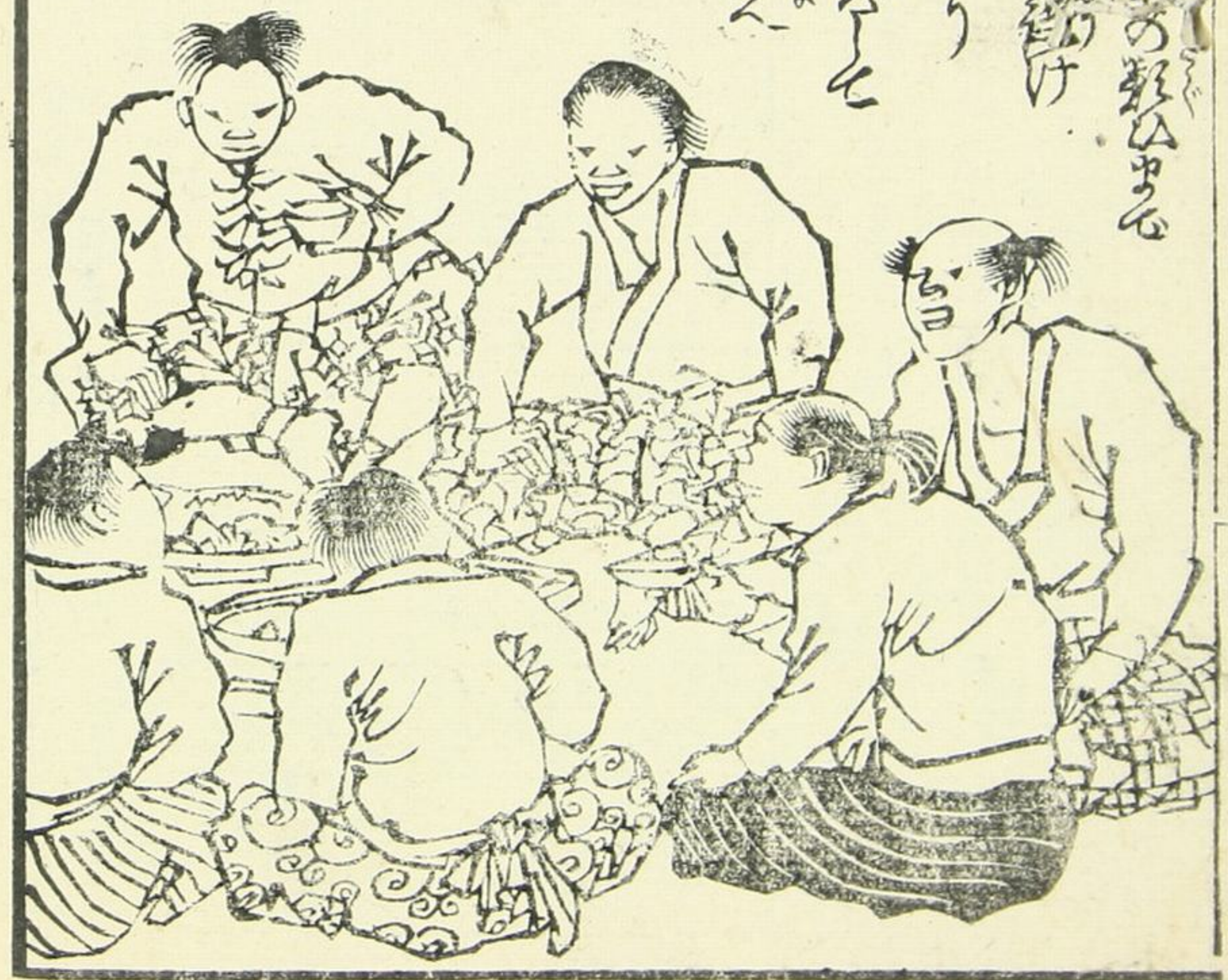
討死しとておのの女とあらん  
 是より内親王様より...  
 者かれは...  
 八月  
 八月



八月  
 八月



序の番越の云も果るう酒千鶴の難ひかる  
 常々たるをて決死の酒をて掛け  
 常々たるをて果るを春をひけり  
 是後戦軍の麻田を修へて果る  
 戦歴を修へて果るの傍戦城に  
 戦軍退去の傍の并九号の  
 春申小後着す并十号の  
 戦軍の戦軍使者を去る果る  
 退去の傍より戦軍に  
 戦軍の果る  
 戦軍の果る  
 戦軍の果る



010190510250



